

愛知スキー協通信 No.355

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会 2024年9月1日
〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 TEL052-201-4801(Fax 共)

e-mail:aichiskikyokai@yahoo.co.jp

http://aichiskykyou.yukigesho.com/



編集：役員会

全国スキー協サマーセミナーin 青森 2024/8/24~25

全国スキー協サマーセミナーは2年に1度、地域を変えて開催されています。2022年は北海道、今年は初めての青森でした。参加者は全体で約50名。愛知から1名(浅井)。

24日(土)午後 講演 1, 私とブルーモリス ブルーモリス前会長:阿部悠二さん 2, 八甲田の自然と地球温暖化 八甲田ガイド倶楽部隊長:相馬浩善さん

25日(日)午前 討論・経験交流 午後 1, 教程解説映像:全国スキー協副会長 荻原正治さん 2, 指導員規定の理解と運営:全国スキー協理事長:小川洋さん

日本のスキー100年の歴史はブルーモリス 100年の歴史と重なる

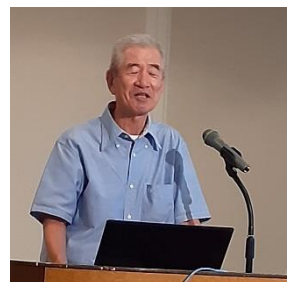
青森スキー製作所100年

ブルーモリス前社長
阿部 悠二

ブルーモリス前会長:阿部悠二さん

1911年のレルヒ少佐の招聘を日本の近代スキーの始まりとすれば、大正時代は今後の発展となる全日本スキー連盟、

地方のスキークラブの創設、スキー製造メーカーの設立、普及活動の開始などが始まった。学校体育への採用、ツアースキーなどによる旅館への誘客など、雪に埋まって生活せざるをえない環境下での雪を楽しむ提案は貴重なものだった。1923年青森スキー製作所として発足、機械導入による量産をめざした。戦時中はスキー制作は出来なく飛行機の座席などを作っていた。1950年にスキー専門の会社として再出発。合板スキーの開発に成功し、1957年からは輸出が始まった。ウレタン芯材のインジェクションスキーを開発し、1980年から販売開始、順調に伸ばすことが出来た。1985年プラザ合意により、円高で急激に輸入数量が増え、国産メーカーが苦しんでいるなかスノーボードの開発、材料費低減などで売上を伸ばした。日本名の「八甲田」スキーも好評だった。社名を「ブルーモリス」へ変更。スキーは輸入も国内消費も1996年以降急激に落ち、ヤマハ、西沢、カザマ、ハガスキーなどが撤退した。現在国産メーカーはオガサカとブルーモリスだけ。新しい人材を採用して五輪選手などトップ競技者から、一般スキー、スノーボード、スノーハイクを製作、また、スポーツ競技としてのアピール、健康、地域活性化、観光とのコラボレーションと、製造・販売に多様性が必要です。



阿部さん



相馬さん

八甲田の自然と地球温暖化

八甲田ガイド倶楽部隊長:相馬浩善さん

八甲田は最高峰の大岳 1585m の低山でありながら、緯度が高いので森林限界が1400m、樹氷ができる。花・湿原・沢・雪・林相と山岳の良

いところがコンパクトに詰まっている。1月から2月は毎日雪が降り、前日のスキークのシュプールを消してしまう。ぶな林の中は風の影響がないので雪がよく楽しく滑れます。

地球温暖化で春の芽吹きが10日から2週間早くなり、滑れる期間が短くなった。また雪崩の危険が増している。1人のスキーヤーとして小さな事からやっている。例えば暖気運転の時間を短くする、ボイラーの温度を下げるなど。金銭的な節約がCO2削減につながり、模索中です。

新しいクラブを作りました(千葉) フラッグを付けて滑り目立っている(北海道)

25日午前 討論・経験交流 北海道の札幌ナイスミドルフレンドスキークラブは70数名のクラブ員、夏は毎週ハイキング・登山・パークゴルフなどで体作り、スキーではフラッグをつけて30人くらいが滑っているので目立ち、いつもバスをしたててスキー行事をしている、それぞれ得意分野で仕事を担ってもらい、機関誌発行、スキー協とはの理念学習をしている、運営委員会をつくるなど原則的な組織運営をしている。

《余談》2年前の北海道は4人で行き楽しかった。今年も誘ったが断られ1人で行くことになって、それならと青森最高峰の岩木山に登ることにした。残念！霧と強風で9号目まで。周りは何も見えなかった。23日の懇親会で静岡の3人に会い、やっぱりもっと誘えばよかったと思った。懇親会では津軽三味線の余興もあり、さすが青森開催。同室の方が北海道のナイスミドルの会長さんでお話を聞き、講演も身近に感じる内容だった。全国集会は楽しくためになる。(浅井)

第24回あいち反核平和マラソン&ジョギング報告 (2024.8.4)

第24回あいち反核平和マラソン&ジョギングが鶴舞公園外周を使い行われました。参加者は選手、受付、給水、救護を合わせて7名の参加となりました。予定していた参加者も今年の異常高温のため、体調を崩し2名も不参加です。こうした高温状態や参加者の高齢化などを見ると、今まで通りの8月上旬日程で行



うことが妥当か、検討が必要と思います。



大会は鶴舞公園外周2kmを2周走ります。しかし最近の温暖化は異常で、最高気温も35度を上回る猛暑日が連続して起きています。今年は医師の方が参加して頂き、救護もお願いしました。状況を相談し2周から1周と決めました。今年も受付は公園の

入り口付近に構えました。受付を行っているとき開催表記の看板が目にとまったのか何人もの方が様子を伺っています。本大会は当日受付も行っているため「参加されますか、よろしかったらどうぞ」と声を掛けました。何か工夫を行い参加者の広がりにつなげていけないかと思えます。



次にコース説明で2周から1週に変更した経緯を説明し、準備運動を行いました。参加者も高齢の方が多くなり体調管理の上でも入念に行うことが大切です。

(新日本スポーツ連盟愛知県連盟 常任理事 筒井顕治)

第2戦危機脱出へ、御岳下見行きました。

野麦峠スキー場は2シーズンは存続するようですが、人工降雪機の故障に伴うチャンピオンⅡ(チャンⅡ)の雪不足の解消が望めず新たな所を探しました。人工降雪機が増える望みほぼ無し)昨年2月の練習会は、無理をして一部ロングポール後はショートラバーポール(フェスの競技で使っているポール)でチャンⅡの中下部で練習しました。第2戦は中止で、宿のキャンセル料を防ぐためもありショートラバーポールでの練習会を無理やり行いました。温暖化が進む中、断念止む無しです。

色々なスキー場に連絡を取りましたが3月にできる(ほぼ予定が入っている)がなく、御岳スキー場で行うことにしました。正月でもポール練習ができるように降雪しています。大会バーンは、有料となります。その分の負担は大きいです。平湯・野麦・野沢は無料。志賀・鹿沢・いいづな・湯ノ丸等有料もしくは練習させてもらえない。練習が無料なのが救いです。

スキー場の都合で平日にお願いしたいということで8月6日に下見に行きました。御岳スキースクールの校長が、「さくら」という蕎麦屋(冬季閉鎖)をしているとのことで、12時に澤田車(安藤洋子・寺田康男・澤田安利)と静岡の加藤直弘さんと待ち合わせて食事をしました。そばと野菜天ぷら(100円)を食べました。

13時に三宅幸一さんと合流し、「おんたけ休暇村」から打ち合わせをしました。大人土曜日(特日)泊が10000円と少し高額ですが食事はよかったと記憶しています。夜10時が門限で施錠してしまうことが分かりました。10時に着けない人は少し問題かな。荷物置き場・ミーティングルームも有料ですが2000円台なのでいいと思います。多くの宿が廃業しており、第2戦の宿は「おんたけ休暇村」を予約しました。2月15日16日の練習会の宿も同時に「おんたけ休暇村」を予約しました。2月1日2日は、関西も参加を検討するというので企画しました。宿は御岳休暇村が空いておらず、だいぶ下の方の「瀬音」にしました。

御岳スキー場には14時に行きました。支配人の矢高さんと校長の吉田さんとプラザオリオン(1F事務所2Fレストラン)で打ち合わせをしました。事務所は狭いので休業中のレストランで打ち合わせをしました。そのあとスキー場を見ました。カラマツペアに乗り、第5クワッドリフトに乗り継ぎます。第5クワッドの右側(下から見て)がパラダイスコースです。大会は、パラダイスコース下部で行います。練習はパラダイスコース上部です。練習バーンは、以前イエティSCで練習していたところでした。練習会を2月15・16日と2月1・2日(いいづなスキー場はバーンの完全確保と宿の調達ができず変更)の2回にしました。(澤田)

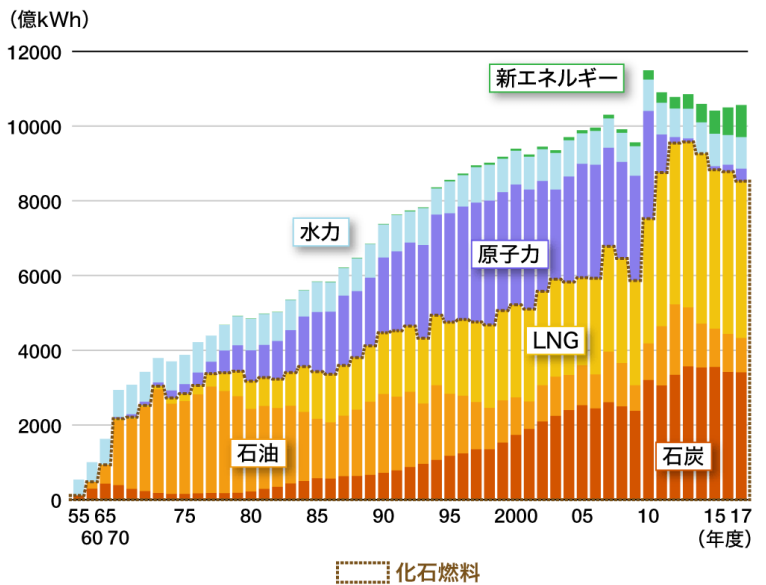
【写真④プラザオリオン⑤道路の向う表彰場所⑥第5クワッド乗り場】



もう、地球を人任せにしない行動をしよう！！

今年の夏は、凄く暑かった昨年よりさらに暑く、9月18日現在で、名古屋での猛暑日が連続25日間続いています。気候危機が深刻な状況になっていることを肌で感じる夏になりそうです。また、海水温も高くなっており、台風7号は、日本接近するまで発達を続けました。東京を直撃すれば、相当な被害があったと予測されています。気候危機によって、このような状態が、毎年続くのです。巷では、今年の酷暑の影響でコメ不足が深刻になっています。食料危機が身近に感じられます。将来への不安が募るばかりです。脱炭素社会への公正な移行を急ぎ、2050年までに自然エネルギー100%で豊かに暮らせる社会を創ることが急務になっています。(経塚)

電源別発電電力量の推移



出所：エネルギー白書2019
2009年度までは電力会社のみを対象とし、10年度以降は自家発電事業者などを含む全ての電気事業者を対象の数値を取りまとめている nippon.com

ワタシのミライのホームページ

気候危機がいっこうに止まりません。

熱波、干ばつ、洪水、食糧危機や水不足、パンデミック、
経済の混乱、格差と貧困、人権侵害、戦争…。

気候危機はもう、いのちの問題です。

すでに世界の約33億人が、気候危機に脆弱な環境下にあるといわれ、
日本でも前例のない自然災害が増えています。

それでも、その原因である先進国のCO₂排出量は、ほとんど減っていません。

時間は残り少なくなりました。

脱炭素社会への公正な移行を急ぐこと。

2050年までに化石燃料や原発ではなく、

自然エネルギー100%で豊かに暮らせる社会を創ること。

そのために市民一人ひとりがつながり、変化を起こし広げていく。

その波が大きいほど、希望は叶うはず。

ミライは、一人ひとりの「ワタシ」が動いた先にあるのだから。